



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イエメン情勢 (8月29日～9月1日付報道)

(30日付サウラ紙ほか)

1. 国民対話会議(30日付サウラ紙)

29日、国民対話会議調停委員会は政府の31項目実施に向けた委員会を設定した。

2. ベノマール国連事務総長特使の発言(1日付サウラ紙)

ベノマール国連総長特使は、引き伸ばしや嫌がらせの時期は終わり、国民対話会議の懸案事項に決着をつける時が迫っていると述べた。また、同特使は、国連はイエメンに対して用意された解決案を提示するのではなく、必要とされた時に技術的支援を提供してきており、これまでのハーディー大統領の努力を評価すると述べた。

3. 石油パイプラインの爆破(1日付マアリブ・プレス)

1日未明、マアリブ州で武装集団により石油パイプラインが爆破され紅海に面するラアス・イーサー港への石油が止まった。

4. サヌア市内でアル=カーイダのメンバー逮捕(1日付イエメン・アルヤウム紙)

治安当局がサヌア市北部アルジャムナ地区でリビア国籍を有するアル=カーイダのメンバー3名を逮捕した。3名は25万ドルを所持し、マアリブ州へ向かっていた。同州は多くのアル=カーイダのメンバーが集まっている。

5. アル=カーイダのリーダー殺害(1日付イエメン・アルヤウム紙)

30日夜、ベイダ州で米軍無人飛行機の空爆によりベイダ州におけるアル=カーイダのリーダー、カーイド・アフマド・ナーシル・ザハブを含むアル=カーイダのリーダー格3名が殺害された。ザハブは2011年9月に米軍無人飛行機の空爆により殺害されたアンワル・アウラキーと義兄弟。